

第1回協働のまちづくり学習会参加者アンケート集計結果

研究会、研究報告への意見・要望

- ・ 研究員には若い人も入れてほしい
- ・ 研究員の構成バランスを是正しては？（新住民が多い。昔からの住民も入れては？）
- ・ 研究会の今後の予定と、平成19年度の流れを広報してほしい
- ・ 研究報告は次回にもっと詳しく説明してほしい
- ・ しくみとしての組織、まちづくり学習会の継続を望む
- ・ 相談役的な立場で専門家を加える必要がある
- ・ 息の長いしくみにしてほしい
- ・ 協働の進め方について、早急に町全体の合意を形成すべき

まちづくりへの提案・要望

- ・ 緑地保全対策（具体的記述はなし）
- ・ 災害避難時のハードとソフトの検討（具体的記述はなし）
- ・ 環境問題への対策（「地球温暖化防止三芳町民会議」の設置）
- ・ 町内循環バスの運行（高齢者対策として）
- ・ 生活道路の整備（高齢者対策として）
- ・ 町長との懇談会の定期開催（各公民館、3か月に1回、町民誰でも参加可能）
- ・ 三芳町の良さを残した発展を望む
- ・ まちづくりへの思いのある人たちが自由に出入りできるステーションを作ってほしい
- ・ 住民の基礎的な集合体は自治会。自治会の充実、活用を望む

講演、研究報告の感想

- 18件：「講演の内容が良かった」「協働の意味、必要性が理解できた」「勉強になった」など
- 4件：「研究報告の内容が良く、期待できる」「研究員に敬意を表する」など

その他肯定的な感想

4件 「まちづくりに参加したいと思った」「ボランティア活動をしたかった」など

- ・ 三芳町の明るい将来の姿が思い描かれた
 - ・ 参加者が多く、関心の高さに驚いた
 - ・ こうした勉強会の場に着くことで、まちづくりに参加しているという意識がもてて良かった
 - ・ 自分たちの町や生活に関わる大事なことを始めようとしていることが感じられた
 - ・ 学習会は、新制三芳町にとって大きな意義があり、今後楽しみな企画
 - ・ マンションの自治会役員や管理組合役員にも聞かせたい
 - ・ 合併を非とした選択の答え（今後の町政の方向性）が見えた気がした
 - ・ いろんな意味で自治体が動き始めていることに驚いた
 - ・ 協働が大きな改革の端緒になればいいと思う
 - ・ 協働とは、地域住民の皆が参画し、意見交換しながら地域課題の解決、目標の達成をしていくことと理解した。
 - ・ 住民と行政の議論が必要であることがわかった
 - ・ 町を良くするには、住民がともに考え協力し合って行動しなければならないことがわかった
 - ・ より良いまちづくりのために、先進地を参考に行政と住民が話し合いながら行政運営を進めていくべきと思った
 - ・ 住民と行政の関係を密にすることが大切と思った
 - ・ 自治体の正否は住民にかかっていることを感じた
 - ・ これからのまちづくりに、住民の側も努力が必要ながわかった
 - ・ お互い顔を合わせるコミュニティの機会がまず第一歩と考えた
 - ・ 協働のまちづくりのための次のキーポイントが印象に残った
 - ・ 依存型自立が目標（地域力を高める）
 - ・ 経験知と専門知の複合体が市民知
 - ・ 市民事業としてのNPOの意味合い
 - ・ 住民組織間の協同が不可欠（コーディネーターの介在）
 - ・ 地域の社会的資源の活用（住民・行政の意識改革）
 - ・ 協働の原則（異質性・対等性・有期性）
- これらの知見をいかに市民プランとして実践レベルに乗せていくかが今後の課題。町の独自性がどこまで発揮できるかがポイント（幅広い住民参画の確保が大切）

その他否定的な感想

7件 「時間不足」「壇上で講義すべき」など

3件 講演は抽象的、表面的で理解できなかった。具体例を聞きたかった

2件 研究報告がとらえどころがない。条例など具体的な行動内容が聞きたかった

- ・ 富士山の裾野のようなもので、協働、しくみの像が明確に描けない
- ・ 参加の仕方がわからない

講師に対する質問

- ・ 協働のまちづくりにおける議会の役割は？
- ・ 仕事を持つ世代（特に20～30代）を巻き込む良い案は？（他の自治体の例から）
- ・ 財政不足の行政によるNPOへの丸投げということにならないよう、住民と行政はどのように話し合い行動すればよいのか？
- ・ 同じ時間を共有するにしても、行政は有償（職務）、住民は無償（ボランティア）で不平不満は出ないのか？
- ・ 現役を退いて、生活に不安のない人がまちづくりに参加するものなのか？